

比叡山
延曆寺会館
ENRYAKUJI KAIKAN
0775-78-0047

古代の謎を推理する

著者 ① 白滝末紀

また、この古墳は喜田吉吉博士が、年代の基準となる第四世紀型の古墳として、第一期の古い形式にあてられているが、そうすると三世紀の半ばに死んだ耶麻呂の卑弥呼とは年代が合わないことになる。

ところが興味深いことがある。四十六年一月一日の読売新聞の報道によると、この古墳がもっと古いのではないかと、という説が出た。

この推理は、三世紀におおむね、この古墳を築いたと推定されている。三世紀の古墳は、三世紀の古墳に属する。三世紀の古墳は、三世紀の古墳に属する。

心で考えたことを、三世紀の古墳に属する。三世紀の古墳に属する。三世紀の古墳に属する。

中国の史書、魏志の倭人伝に、史官陳寿が記している。中国人が海のかたから見た見聞を土台に、日本列島の説も、特に明治以来、大和説と九州説に分かれて大論争され、専門学者から町の人まで、正して解釈する必要があるが、信憑すべき文獻として無視することは許されまい。

とくに、当時三十余国に分かれており、大きな内乱がおこった。この争いのあとで、国々から共立されたのが、大和政権であった。その出現で、争いが止まり、おさまった。国内が平和に帰したという。

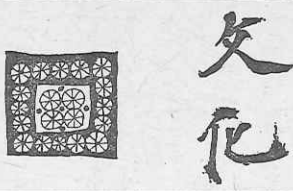
神をまつて、神をまつて、神をまつて。神をまつて、神をまつて、神をまつて。

力を持つて、力を持つて、力を持つて。力を持つて、力を持つて、力を持つて。

力を持つて、力を持つて、力を持つて。力を持つて、力を持つて、力を持つて。

力を持つて、力を持つて、力を持つて。力を持つて、力を持つて、力を持つて。

力を持つて、力を持つて、力を持つて。力を持つて、力を持つて、力を持つて。



文化

文化

文化

文化

文化

文化

文化

文化

文化

文化

江戸城の名残り

修学旅行のスポット

皇居東御苑

皇居東御苑は皇居の東側にあり、旧江戸城の本丸および二の丸を中心とした地域で、面積は約二二万平方メートルである。

江戸城の旧地は平安時代の末期から鎌倉時代にかけて江戸氏が居を構えていた。長祿元年（一四五七）太田道灌がここに居城を構え、文明十八年（一四八六）まで三十二年間の城主であった。のち、上杉氏が三十九年間、北条氏が六十一年間（一五九〇）徳川家康が入城して慶長八年（一六〇三）ここに幕府をひらき明治元年（一八六八）皇居となるまで徳川氏の居城であった。

御苑には天皇家の御所である吹上御所がある。本丸は幕府のお将軍の居所で、寛永当時の本丸の建物は、表・中・奥・大奥からなる約三万三千平方メートルに達するほどの広大な敷地をもつていた。

松の廊下 富士見櫓から北に園路を約一五〇メートル進んだところに本丸御殿大広間から白書院に通じる松の廊下があった。元禄十四年（一七〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

天守台 本丸の北側、北詰櫓門（きたはねしも）を入ったところにある。東西約四一メートル、南北約四五メートル、高さ約二一メートルの五層の天守閣が建てられ、その高さは地上約五一メートルで、日本最大といわれた。天守閣は慶長十二年（一六〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

松の廊下 富士見櫓から北に園路を約一五〇メートル進んだところに本丸御殿大広間から白書院に通じる松の廊下があった。元禄十四年（一七〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

松の廊下 富士見櫓から北に園路を約一五〇メートル進んだところに本丸御殿大広間から白書院に通じる松の廊下があった。元禄十四年（一七〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

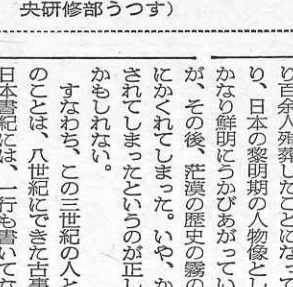
松の廊下 富士見櫓から北に園路を約一五〇メートル進んだところに本丸御殿大広間から白書院に通じる松の廊下があった。元禄十四年（一七〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

松の廊下 富士見櫓から北に園路を約一五〇メートル進んだところに本丸御殿大広間から白書院に通じる松の廊下があった。元禄十四年（一七〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

松の廊下 富士見櫓から北に園路を約一五〇メートル進んだところに本丸御殿大広間から白書院に通じる松の廊下があった。元禄十四年（一七〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

松の廊下 富士見櫓から北に園路を約一五〇メートル進んだところに本丸御殿大広間から白書院に通じる松の廊下があった。元禄十四年（一七〇七）に建てられ、五層の屋根には金色のシャチが輝いていて、明暦の火災で焼失。その後、再建された。台石垣だけが再建された。

北西方向からみた箸墓の左端前方部（中央研修部うつす）



箸墓の台座で、その南、左側、根元（ねもと）に、伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。

伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。

伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。

伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。

伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。

伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。伊賀組と伊賀組の墓がある。

郷土の玩具

簡素な笹野彫と赤べこ

東北地方

サギの動物で、さきさき、作品が多い。削りかけの荒っぽい技法が特徴だが、それはアイヌの手法に似ている。首を振る赤べこの姿はユーモラスで、郷土玩具としてすっかり定着した。（資料・全修協広報部、中央研修部）

サギの動物で、さきさき、作品が多い。削りかけの荒っぽい技法が特徴だが、それはアイヌの手法に似ている。首を振る赤べこの姿はユーモラスで、郷土玩具としてすっかり定着した。（資料・全修協広報部、中央研修部）

サギの動物で、さきさき、作品が多い。削りかけの荒っぽい技法が特徴だが、それはアイヌの手法に似ている。首を振る赤べこの姿はユーモラスで、郷土玩具としてすっかり定着した。（資料・全修協広報部、中央研修部）

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒に

集团生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された スズカヒレツン

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ...自分でハンドルを握る「ゆうえんち」
国際レーシングコースを走るレーサー気分も.....
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで
校歌を歌うひととき——
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も
忘れがたいもの、どれを取っても
学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。



昨年一年間で11万人もの学生さんがこの思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた
《新近畿ルート》をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離
未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。
スズカランド 三重県鈴鹿市稲生町
電話=0593(78)1111
本社：東京都中央区銀座4-2-2 電話(535)6251
大阪営業所：大阪府大阪市北区南門町15 電話(313)0841